

社長の平均年齢は 61.5 歳、 過去最高を更新

「50 歳以上」、6 年連続で 8 割超
高齢化に歯止めかからず

福島県・「社長年齢」分析調査(2024 年)



本件照会先

神尾 友勝 (支店長)
帝国データバンク
郡山支店
024-923-2442 (直通)

発表日

2025/05/23

当レポートの著作権は株式会社帝国データバンクに帰属します。
当レポートはプレスリリース用資料として作成しております。著作権法の範囲内でご利用いただき、私的利用を超えた複製および転載を固く禁じます。

SUMMARY

社長の平均年齢は、2024 年時点で 61.5 歳だった。前年を 0.2 歳上回り、過去最高を更新した。団塊の世代が 75 歳以上の後期高齢者となる「2025 年問題」が到来しているなか、2024 年における福島県内企業の後継者不在率は 3 年連続で 5 割を下回る状況が続いている。「経営者の病気・死亡」による倒産も増加しており、円滑な事業承継に向けて、早期に準備を進める必要性が一層高まっている。

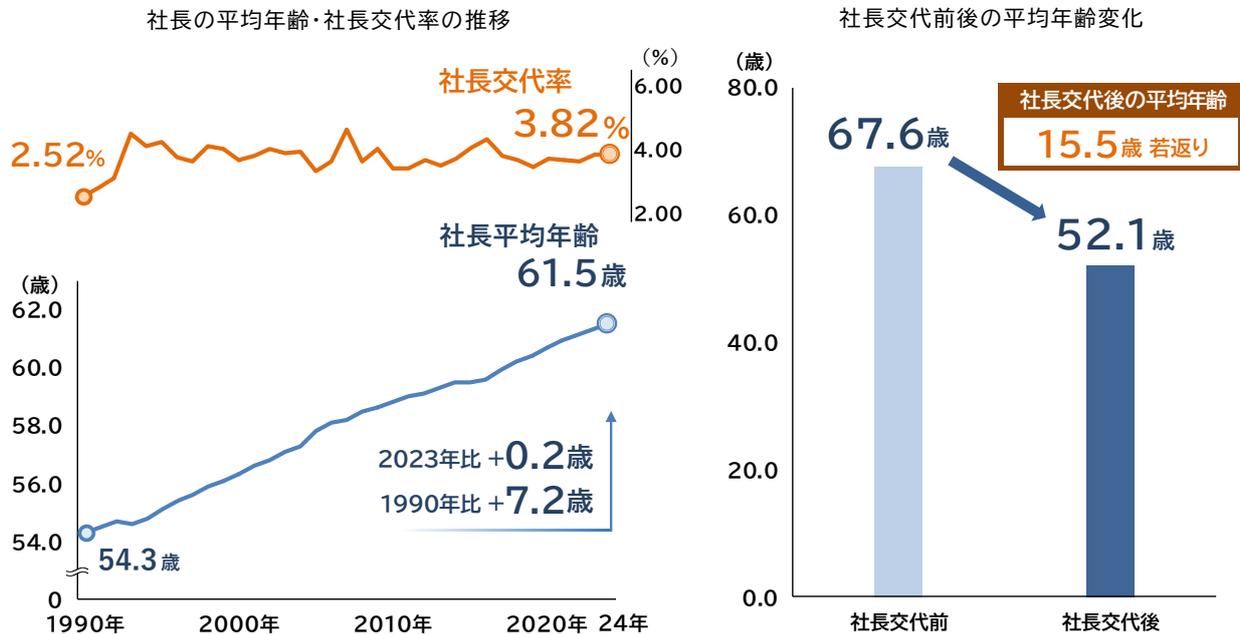
本調査では、企業概要ファイル「COSMOS2」(約 148 万社収録)から 2024 年 12 月時点における企業の社長データ(個人、非営利、公益法人等除く)を抽出し、集計・分析した

社長年齢は 61.5 歳、過去最高を更新

福島県内企業の社長平均年齢は、2024 年時点で前年を 0.2 歳上回る 61.5 歳となった。統計として遡れる 1990 年から上昇が続いており、過去最高を更新。社長交代率は 3.82% と、8 年連続で 3% 台の低水準が続くなど、依然として社長の世代交代に関して活発な様子は見られず、社長の高齢化はさらに進行している。

また、社長が交代する際の年齢は平均 67.6 歳となり、前年(69.1 歳)から 1.5 歳若返った。社長交代後の新社長の年齢は 52.1 歳で、社長交代によって平均 15.5 歳若返った。

社長平均年齢の推移

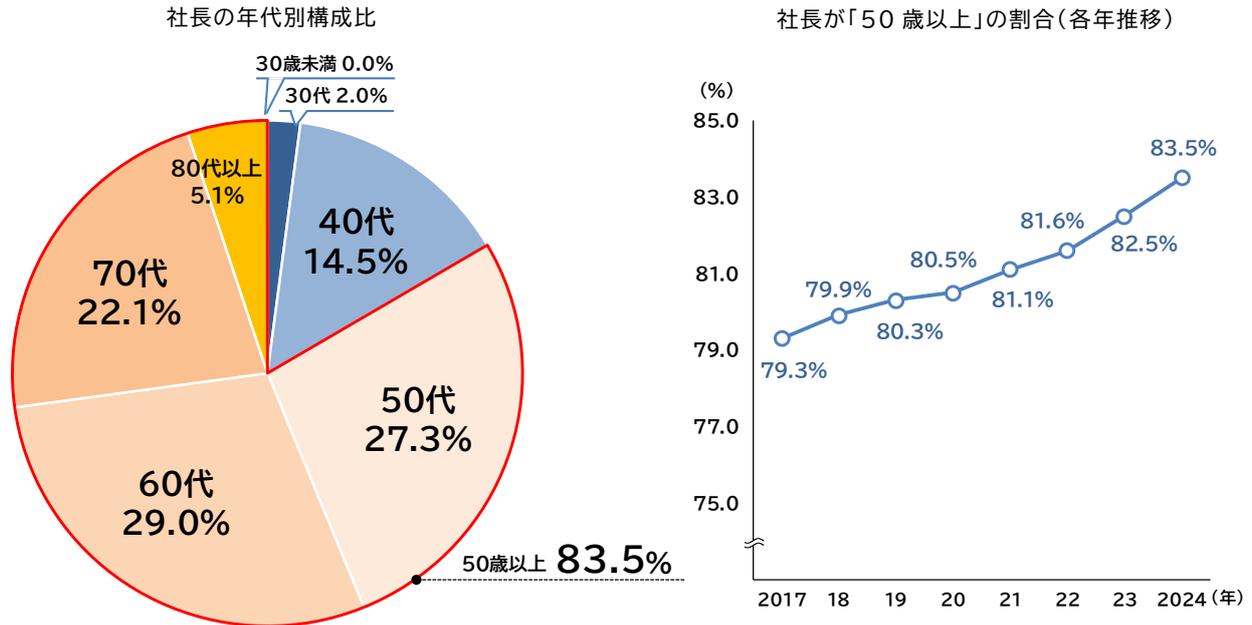


年代別構成比、「50 歳以上」は年々上昇、6 年連続で 8 割超え

2024 年時点における社長の年代別構成比をみると、「50 歳以上」が 83.5% となり、全体の 8 割以上を占めた。2024 年はいわゆる「団塊ジュニア」世代の多くが 50 歳を超える時期であり、6 年連続で 8 割を上回るなど上昇が続いた。また、「60 歳以上」で区分しても 56.2% と半数を超えている。

加えて、「30 歳未満」は 0.0%、「30 代」は 2.0% にとどまり、30 代以下の社長は全体のわずか 2% に過ぎない。

社長の年齢区分(年代別)



業種別では、「不動産」が64.9歳でトップ

社長の平均年齢を業種別でみると、「不動産」が64.9歳でトップだった。また、「卸売」・「小売」(各62.4歳)や「製造」(61.6歳)も、福島県全体の平均年齢(61.5歳)を上回った。

一方、平均年齢が最も低かった業種は「建設」で60.5歳だった。60歳を下回る業種はなく、総じて平均年齢は上昇傾向を辿っている。

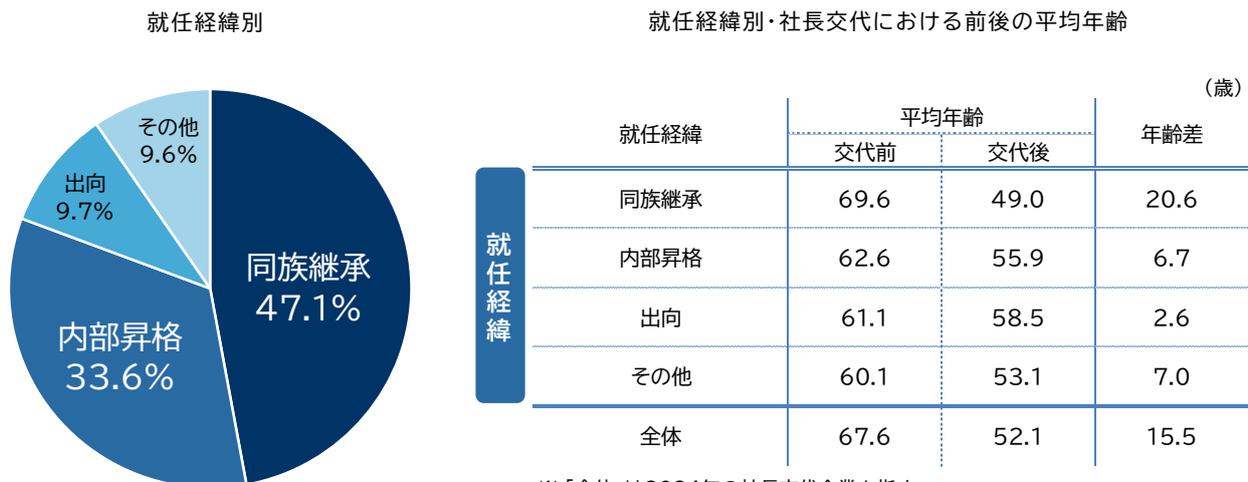
社長平均年齢・業種別(年推移)

	1995	2000	2005	2010	2015	2020	(歳)	
							2024	対95年比
東北	55.5	56.7	58.1	59.3	60.2	61.2	61.8	+6.3
建設	53.7	55.3	57.0	58.0	58.5	59.6	60.5	+6.8
製造	56.4	57.4	58.6	59.6	60.4	61.2	61.6	+5.2
卸売	55.8	57.3	58.3	59.4	60.5	61.5	62.4	+6.6
小売	55.3	56.4	58.2	59.4	60.4	61.7	62.4	+7.1
運輸・通信	55.9	56.4	57.8	57.8	59.7	60.3	60.9	+5.0
サービス	54.2	55.8	57.6	58.7	59.0	60.6	61.3	+7.1
不動産	55.4	58.3	59.7	61.4	62.3	63.7	64.9	+9.5
その他	56.5	57.1	57.8	58.7	58.8	60.2	61.5	+5.0

交代した社長の就任経緯、「同族継承」が約半数を占める

交代した社長の就任経緯を分析すると、「同族継承」が 47.1% で最も高く、「内部昇格」が 33.6% で続いた。就任経緯別に社長交代前後の平均年齢をみると、「同族継承」が交代前の平均年齢では 69.6 歳で最も高く、「内部昇格」は 62.6 歳だった。交代後では「出向」が 58.5 歳で最も高く、「同族継承」が 49.0 歳で最も低かった。

社長交代企業・就任経緯別分析



高まる「社長の高齢リスク」、事業承継への早期着手が焦点

福島県内企業の平均年齢は61.5歳となり、過去最高を更新した。社長が「50歳以上」である企業の割合は引き続き8割を超えるなど、「社長の高齢化」が一層深刻になっている。業種によっては、さらに高齢化が進行している実態も明らかとなった。直近では社長交代率が低水準にとどまるなかで、今後も社長の平均年齢は上昇し続けると見られる。

2019年、中小企業庁は「2025年までに70歳を超える中小企業・小規模事業者の経営者は約245万人となり、うち約半数の127万人が後継者未定¹」との試算を発表しているが、鈍化する社長交代率を背景に平均年齢の上昇に歯止めがかからない。TDBの調査でも、福島県内の後継者不在率は3年連続で5割を下回り、過去最低の45.1%となるなど²、今後は事業承継が進まずに事業継続を断念せざるを得ないケースがさらに増加する可能性がある。

社長が高齢になれば「不測の事態」が生じる可能性が高まり、企業経営にも重大な影響を及ぼしかねない。社長の高齢リスクが高まるなか、十分な期間を設けた事業承継の実施に向けた周到な準備が求められる。

¹ 中小企業庁「中小企業・小規模事業者におけるM&Aの現状と課題」P1より

² 帝国データバンク『福島県「後継者不在率」動向調査』2024年12月20日発表

(参考)社長の平均年齢 都道府県別

